

【西区】令和 8 年第 1 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和 8 年 2 月 6 日 午後 3 時 30 分 ～ 午後 5 時 00 分
場 所	西区役所 3 階 3 B 会議室
出席者	【座長】荻原隆宏議員 【議員：2 名】清水富雄議員、荻原隆宏議員 【西区：34 名】菊地健次区長、本多由紀子副区長、市川裕章福祉保健センター長、野田晴子福祉保健センター担当部長、飛鳥田まり医務担当部長、蝦名隆元土木事務所長、ほか関係職員
議 題	1 令和 8 年度 西区編成予算（案） 2 令和 8 年度 西区編成予算（案）主要事業 3 GREEN×EXPO 2027に向けた横浜駅周辺での美化・環境向上の取組
発言の 要 旨	【「にこやか、しあわせ、くらしのまちプラン」（西区地域福祉保健計画の推進）、子育て支援の推進】 清水議員：にこまちプランは、正確に言うと「にこやか、しあわせ、くらしのまちプラン」で、略称になるが、「にこまちって何なの？」という区民の方がかなり多いと思う。「にこまちプラン」とするときは、必ずフルネームを入れてもらった方がいいと思う。私自身、「パマトコ」も分かりにくくどのような取組か思い出しにくい。知っている人だけで知っているとなっていないかを感じる。 大熊こども家庭支援課長：「パマトコ」は略称ではなく、「子育て応援アプリ・パマトコ」が正式名称になる。横浜市として展開しているアプリだが、利用者のメインが子育て世代なので、一般の市民の方まで認知されていない状況はあるかもしれない。 【商店街及び「まち」のにぎわい創出事業】 清水議員：西区情報発信事業として、西区商店街フォトコンテストの作品が資料に掲載されているが、とても良い。コンテストの写真は、市民が見られるように、どこかで展示するなど行う予定はあるのか。とても良い写真なので、西区の写真として今後活用させてもらってもいいのではと思う。 加藤地域振興課長：新年度の 4 月に、1 階の区民ホールで展示を予定して

おり、是非ご覧いただきたい。

【スポーツ振興事業】

清水議員：スポーツ振興についてこれまでも何度がお話ししているが、Ｊリーグや野球ばかりではなく、地元でデフリンピックに出場したオリンピックがおられ、もっと区としても取り上げるべきと思う。

加藤地域振興課長：以前にもスノーボードの小学生の方が区長を表敬訪問し、西区としてもＰＲをさせていただいたこともあった。そうした地元選出のスポーツ選手、有名な世界大会などに出場する選手につきましては、区役所としてもバックアップをして、積極的にＰＲしていきたいと思う。

清水議員：地元で、有名なので、西区の特色として打ち出していくというのは西区ならではのなにかと思う。Ｊリーグと同様に地元愛を持って、地元を応援する、地元を前面に押し出していったらと思う。

【地域防災活動推進事業】

清水議員：防災については、自助共助で取り組んでいるが、例えば避難場所として体育館がありスペースにも限りがある中で、横浜市と仏教会がお寺の施設の利用協力について協定書を結んでいる。これまでは、仏教会と防災訓練を行っていないが、協定もあるので一度、新しい取り組みとして防災訓練を行うべきでないかと思う。仏教会青年会の方もやる気があるようだ。

吉川総務課長：仏教会の方との協力については、大変貴重な機会だと思う。昨年も仏教会の幹事の方と、今後の取り組みについて確認をさせていただいた。防災担当として、具体的にどのような連絡体制をとって行うか確認している。防災訓練など、具体的な取組にも進めて連携を強化していきたい。

【安心して暮らせるまちづくり推進事業】

清水議員：日頃からの様々な連携がやはりいざという時は、必ず役に立つと思う。防犯意識啓発事業の地域のつながりづくり促進にある「トコパト」について、具体的な取り組み内容を教えてほしい。

加藤地域振興課長：「地域のつながりづくり促進」の取り組みとして、区民の皆様の中で、愛犬のお散歩を「とことこ」歩きながら、ご自分のできる範囲で「パトロール」をしていただく愛称として、馴染みやすい名前として「トコパト」と我々の方で考えさせていただいた。

清水議員：トコパトの後に「とことこパトロール」など名称を入れてもらえれば区民の皆さんにもわかりやすいと思う。

【障害のある人も住みやすいまちづくり事業】

荻原議員：電源を要する医療的ケアが必要な在宅障害児者等への災害対策について、今、西区内で人工呼吸器や吸引器などの電源を要する医療機器を日常的に使用している方は何名いらっしゃるか。

池田高齢・障害支援課長：該当する方については、正式に何名という形では把握していない。ただ、西区としては、個別に対応している。電源を要する方の「私の災害対策ファイル」という取り組みでは、現在 21 名の方を支援させていただいている。全体では、21 名よりは多いのではないかと思うが、正確に何人というのは把握していない。

荻原議員：この 21 名は、実際に発災時に支援が必要ということで名簿に登録されている方になるのか。

池田高齢・障害支援課長：災害時要援護者名簿の取組とは別の形になり、その 21 名の方すべてが災害時要援護者名簿に登録されているものではないと思う。

荻原議員：そうすると、この 21 名の方については、その情報が保管されているわけではないということか。

池田高齢・障害支援課長：先ほど申し上げた「私の災害対策ファイル」を作っているのは、訪問看護師や保健師等の看護職になり、災害が発生したとき人工呼吸器利用者等医療依存度が高い人を最優先に確認をするという対応になっている。そのため、災害時要援護者名簿とはまた違った仕組みの中で確認をする。名簿という形ではなく、そうした方を把握している。

荻原議員：そのファイルは保健師が管理しているのか。

池田高齢・障害支援課長：「私の災害対策ファイル」は、災害が発生した時に、どのような準備が必要か、どのような人が支援するのかを事前に把握しておくために、ご自身と、支援をしている方が作成しているものなので、ご本人がファイル自体はお持ちになっている。区役所では、そのファイルを作っている方を把握しており、何かがあった時にはその方々を確認し、支援するという形になる。

荻原議員：そうすると、要援護者の名簿には、その情報が不明確で、必ず

しもその地域防災拠点の皆さんが、この電源を要する方だという情報をキャッチできる状況ではないということか。

池田高齢・障害支援課長：必ずしもすべてが一致するわけではないが、要援護者名簿は、地域の方が、お持ちになって、地域の方が見ていただく形になるが、こちらの災害対策ファイルは、行政や訪問看護ステーションが把握しているので、その時点で確認をするという形になる。

荻原議員：できる限り地域防災拠点の運営する方に情報があつた方が良いと思う。備蓄の中に医療用の電源がある。どのように活用していくか、地域防災拠点の皆さんで考えなければならないという場面があると思うが、その際に、自分たちの地域防災拠点のエリアの中には、電源を要する医療的な必要な方の情報は共有できた方がいいのではないかと思う。

池田高齢・障害支援課長：要援護者名簿については、平時に本人が同意し、発災した時には、名簿全員の情報を提供して確認するという形になる。この「私の災害対策ファイル」というのは、その電源を要する方、必要な方と、訪問看護ステーションなどの関係者と、こうしたファイルを作った方が災害時に安全にいられるという取り組みの中で行っている。ご本人様の情報を地域の方に提供してよろしいかどうかというところまで現在動いていないので、今後の参考とさせていただきたい。

【藤と季節の花がつなぐまちづくり事業】

荻原議員：ぜひ検討してもらいたい。電源は地域防災拠点にあるので、それを活用しなければならない場面もあると思う。

専門家による鉢植え藤の管理講習会について、どのような内容で行うのか。鉢植え藤や藤の苗の配布についてはどうか。

井田西土木事務所副所長：鉢植えの一才藤という藤を使い、募集した10名程度の参加者に専門家の先生が、その一才藤の剪定の仕方や、花の咲くまでの維持管理の仕方など指導する。藤を区民の皆さんに親しんでいただくような取り組みを実施している。

荻原議員：区民向けに鉢植え藤や藤の苗の配布を行うとより親しみがわくように思うが。

井田西土木事務所副所長：ご参加いただいた方には、一才藤を鉢植えのままご提供する。

荻原議員：可能であれば、様々なイベントの機会を捉えて、藤の苗を区民の皆さんにも配布していただけたらありがたい。

井田西土木事務所副所長：検討させていただく。

【地域防災活動推進事業】

荻原議員：地域防災拠点の段ボールベッドについて備蓄されているもので、例えば体育館に 100 名来るとして、段ボールベッドは 10 に満たない、そうした状況が見受けられるが、これは何か基準があって、段ボールベッドの備蓄数を決めているのか。

吉川総務課長：段ボールベッドについては、基準を決めて、配布しているわけではないが、災害発生直後は、毛布などを用意しているので、その毛布を配布して寝ていただくことになる。時間が経てば、段ボールベッドを供給することもあるが、当初の備蓄はしていない。

荻原議員：段ボールベッドは、備蓄の対象ではないということか。

吉川総務課長：段ボールベッドについては、保管場所を広く必要とするため、全くないわけではないが、少ない。今後は、担架に似ているキャンプ時に使う布製のコットというベッドに似たものの配布を進める。この方がかさばらなく、配置しておきやすい。やはり、段ボールベッドは、容量が大きく、保管場所があまりない。キャンプやアウトドアで使用すると少し高さが出る感じで、ポリエステル生地で、担架のようなものをコットと呼んでいる。

荻原議員：コットはすでに、地域防災拠点に配置されているのか。

吉川総務課長：一部拠点には配置されており、全市的に今後各拠点にコットというのを配置していく事になっている。

荻原議員：いつ頃、地域に配置されるのか。

吉川総務課長：配布時期は、本年 3 月中と聞いている。また個数については、拠点にいくつ配置するかは、今は把握していない。

荻原議員：体育館について、町内会の世帯数、人数に比して、収容人数が非常に少ないということは、以前から課題になっている。体育館以外の民間施設で、新たに避難所としてくれる施設は増えているのか。

吉川総務課長：地域防災拠点が、いっぱいになった場合には、補充的避難所というのを指定しており、現時点で、15 の施設を補充的避難所として指定している。例えば西スポーツセンター、コミュニティ

ハウス、境之谷ログハウスなど、もしくは、横浜平沼高校、八洲学園、こうした施設を補足的避難場所としている。

荻原議員：これはどのような形で増やしていくのか。

吉川総務課長：スポーツセンターと 15 の施設については、補足的避難所として発災の際に使えるということを確認している。各小中学校の地域防災拠点の利用状況について定員いっぱい確認し、区で判断してその施設にお願いして開設するという形になる。

本多副区長：新たな施設ができた時には、協定等を結んで災害時に使わせていただくことを働きかけている。例えばKアリーナさんとも使わせていただけるかどうかを確認して、可能な数を収容できるということで取り組みを進めている。今後も民間とは連携をしながら、増やしていきたい。

荻原議員：Kアリーナさんはすでに補助的避難所になっているのか。

本多副区長：Kアリーナさんは帰宅困難者の収容施設になる。

吉川総務課長：可能な限り、積極的にお願いをして増やしていきたい。

【西区 みんなでエコアクション！推進事業】

清水議員：リサイクル、リユース、リデュースとあるが、リデュースについては知っている人があまりいないのではないかと思う。横浜駅の中二階に、環境のイベントなどを開催している良い場所があるが、この場所をうまく活用できないか。

海老澤資源推進担当課長：令和 7 年度で 4 回目になるが、市の単独の開催ではなく、J R さんのイベントと共催ということで、使わせてもらっている。

清水議員：普段、あの場所はオーナーさんが使用しているのか。グリーンエクスポも控えているので、あそこに西区の出店を出してはどうかとも思う。

海老澤資源推進担当課長：様々なイベント等行っているが、いい場所でもあり有料となっている。今後、費用面を考慮し検討していく。

川添区政推進課長：お話しの J R 横浜タワーのアトリウム部分が、横浜駅西口直結の場所にあり、非常に好立地な施設で特に活用しやすいと思っている。エコキャンペーンでも、活用させていただいているが、令和 6 年度の西区制 80 周年の際に、温故知新のパネル展を開催し、アンケート結果から、普段なかなか見ていただけない方にもご覧いただき、いい手応えを感じていた。GREEN×EXPO

2027 の機運醸成について、これから力を入れて、1 年間やっていきたいと思っている。その際の P R の場所の候補に入れながら、事業者の皆様と連携しながら進めていきたい。

【GREEN×EXPO 2027 に向けた横浜駅周辺での美化・環境向上の取組】

清水議員： GREEN×EXPO 2027 が来年にせまり、今年は 1 年前ということで大事な年だと思う。始まった後に P R といってもなかなか追いつかないので、今年が P R の年だと思う。トウungk トウungk のバッヂをつけている人は、何人かいられるが、無理やりというわけにはいかないが、ユニフォームと思えば、みんなで付けていこうかと思う。

川添区政推進課長： トウungk トウungk をもっと知ってもらいたいということもあり、これまでの P R でも、まずは目に触れて認知していただくことが、非常に難しいと感じているので、身につけるものなども含めて P R 活動を進めていきたい。

清水議員： 大阪万博のミャクミャクも最初は、「これは何？」といった反応だったが、最後はプレミアムが付くまでの人気になっている。

次に街の臭気について、横浜駅西口だけではなく、下水管などが老朽化しているせいか様々な場所で臭気を感じる。GREEN×EXPO 2027 が開催されるからということだけではなく改善すべき時期が来ていると思う。

井田土木事務所副所長： 横浜駅西口の臭いについては、おそらく下水道の硫化水素の臭いと思うが、現在場所の特定を進めている。概ねこの辺ではないかと、だいたい場所の確認は、取れており、施設管理者と話し合いを始めている。他のところについても横浜駅では、調査、確認を進めている。横浜駅以外では、まだ着手に至っていない。

【商店街及び「まち」のにぎわい創出事業】

清水議員： 西区でも商店街でのプレミアム商品券の実績がこれまでであるが、プレミアム商品券について、どのような仕組みで事業を行っているのか、実績も教えてもらいたい。

加藤地域振興課長： プレミアム商品券については、経済局の事業として、実施している。

清水議員： 西区では商店会があり、連合商店街もあるが、西区全体で一つとして扱っているのか、それとも商店会ごとに行っているという

ことかも教えてもらいたい。

加藤地域振興課長：今年度では、藤棚の一番街、藤棚の商店会でそれぞれ実施している。それぞれ商店街ごとに行っており、一番街では、9月に販売を行っており、藤棚商店街では、10月の下旬に販売を行い、年末まで使用できるというような取り組みが行われている。

荻原議員：藤棚商店会は、コロナの頃から毎年実施しており、顧客が定着したという感触もあり商品券は完売している。お客様にも毎年非常に喜んでいただいている。コロナの時は、30%のプレミアム率だったが、去年は20%となった。経済局は、より広く多くの商店会の皆さんが利用できるよう、そのように設定したため心配したが、それも完売したので、プレミアム商品券事業というのは、非常に効果が高い事業であると感じている。

【子育て支援の推進】

清水議員：西区は商店会の街だと思う。海の方からいくと、岩亀通り、戸部通り、紅梅通で中央西前、藤棚、ニコニコ、藤棚一番街。これだけ長い商店街ってこの日本でもまれだそうで、やはり地元の商店街を大事にして応援していきたい。

資料の説明では、「西区は他区に比べ、出生数に占める第1子の割合や35歳以上で出産する人の割合、転入・転出者の割合が高いことを踏まえ、子育て家庭が地域で孤立することなく安心して子供を産み育てられるよう、プレパパママクラスや赤ちゃん教室などを実施し、地域とのつながりを大切にしながら子どもの健やかな育ちを応援します。」とあるが、出生数・出生率の実際の数字としてはどのようなになっているか。

大熊こども家庭支援課長：直近の令和6年で、西区でお生まれになったお子さんの数が664人、その中で第1子、初めてのお子さんとして生まれた方が382人、割合としては57.5%になる。横浜市の平均が51.7%であり、18区で一番多い割合になっている。もう一つの35歳以上で出産する方の割合については、664人生まれた子のうち、261人の子のお母さんが35歳以上であり、その割合は、39.3%となる。横浜市の平均が33.4%のため約6%上回っており、こちらも18区中1位になる。

清水議員：35歳以上で出産される方の比率が横浜市内で一番高いというこ

とか。

大熊こども家庭支援課長:統計上では、35歳以上で出産された方の割合は、横浜市で一番という状況になっている。近年の状況を見ても、1位から、3位が続いており、西区の特徴の一つと捉えている。

【その他】

清水議員:年明け1月3日に横浜の消防を舞台にしたドラマ「エマージェンシーコール」が放映されていたが、いろいろな人材が不足し、なり手不足の現状がある。ドラマでA Iを119番の業務に活用しようとする部分があった。最後はA Iにはできない、人にしかない、優しさ、ち密さがなければならないということが、テーマだったと思うが、実際、人手不足が言われる中で、消防には夜通し頑張ってもらっている。

石黒西消防署長:消防局司令センターでは、119番について、すべて人が受けている。民間のコールセンターなどでは、A Iにかなり変わってきている現状もあるため、119番についてもA Iで代替できないかという検討を始める予定で、来年の予算に計上していると思う。今後、A Iの精度が、上がっていくかどうかにもよると思うが、ある程度のところは、代替できる可能性があるのではないかと考えている。ただ、ドラマでも描かれていたが、日本語の微妙なニュアンスなどかなり難しいところもあるため、やはり最後は、人なのかもしれないと個人的には考えている。

清水議員:緊急救急車の利用については、いろいろと言われるが、適切な利用が望まれ、市民区民の方のマナーが大切であると思う。西区では、18区の中でも窓口対応が良く、そうした姿勢が区民の皆さんに伝わり、チームワークの良い区になっていると思う。

荻原議員:最後に一点で、人権意識という観点について、命を大切にしようということは、今回、説明していただいた事業もすべて最後は、そこに行き着く内容ではないかと思う。防災も防犯も障害理解も環境についても。特に障害のある人も住みやすいまちづくり事業の中に啓発事業があると思う。また、子育て支援事業にもスクールサポート事業というのがあり危機管理教室の開催でSNSのトラブルなど取り扱っていると思う。SNS等でのいじめの問題など実際にその対人でのいじめについては、しっかりと撲滅に向けて取り組んでいかないといけない課題だと思う。特にいじめについて

	は、教育委員会マターと捉えられがちだと思うが、やはり、社会全体で子どもたちのいじめをなくしていくことの重要性を伝えていくためには、まず大人がいじめをやめなければいけないことから始める必要があると思う。いわゆるハラスメントであり、パワハラ、モラハラ、セクハラなど様々なハラスメントがある。グレイゾーンで、訴えるのが難しく、解消していくのも難しい状況の中、子供にだけやめさせるのも難しい話と思う。今一度、人権意識の向上ということに西区全体で取り組んでいただけたら大変ありがたいと思っている。学校の子どもたち同士のいじめはなくなってほしい。西洋では、トーチャー、身体的、精神的な責め苦と捉えられている。いじめは精神的に苦しめる非人間的な行為と身についていくことが大事で、学校や職場、暮らしの中でなくしていく取り組みは、まだまだ足りていないと思っている。横浜市教育委員会では、いじめの問題が課題として大きくあり、人権意識の向上に取り組んでいただきたいと思う。 菊地区長：人権の研修については、毎年、行っており、人権そのものは、仕事をする上ですべての根幹であると思っている。相手を思う思いやり、人と人とのつながりは、一番大切なところであると思っている。今、この社会状況の中で、にこまちプランのアンケートを実施すると、希薄さが浮き彫りになり、その推移が上がってきている。自分だけが大切みたいところが、増えてきており、人権というのは根幹にあるもののの中では、一番大切であると思っている。例えば「いじる」ということ自体も、相手にとり傷つくこともあるため、相手の気持ちを分からなければならない。窓口でのお客様とも、職員同士でも、地域の方とも、お話しする上で、相手の気持ちを分かり思う心を持ち、分かち合う状況ができてないと、仕事にもならないと思っている。そうした心を大切にしながら、これからも、進めていきたいと思っている。にこまちプランの根底にあるものがまさに人権と思っており、つながりを大切に、にこやか、幸せに暮らすためにも、しっかり取り組んでいきたい。
備 考	